

神戸高校 京都大学水産実験所 サイエンスツアー 参加生徒アンケート

2013. 6. 15 実施

	問1	問2-1	問2-2	問3-1	問3-2	問4	問5-1	問5-2
実習班	実習によって、興味や関心の深まりがあったと思いますか。(5段階)	実習後、文献やweb等で調べることがありましたか。	どんなことを調べたか。	担当の方に質問をしましたか。(回数)	質問内容は。	実習した分野の知識が充実したと感じますか。(5段階)	実習班で役割を果たせたと思いますか。(5段階)	自分のどのような行動に対してですか。
A1	5	あった	ウミウシやナマコについてや、捕獲した今まで知らなかった生物について	0		4	5	班員の点呼、ライフジャケットの後片付け
A1	3	あった	シマイサキの背鰭、臀鰭、胸鰭、腹鰭の数が図鑑の範囲内にあるかどうかWebで調べた	3	魚類図鑑の見方、下肢鰓耙を数える方法 電子顕微鏡の使い方など	4	4	まわりの友達と種名を調べる際、意見を言い合うことができた。
A1	4	なかった		0		4	5	測定した値を記録した。
A1	3	なかった		3	・クラゲの毒に対して免疫はできますか？ ・なぜ海が緑色になっているのか？ ・矢頭先生は有名ですか？(矢頭先生のことが話題に出たので)	4	3	海洋観測で、船の位置などを記録する係をした。網で引き揚げたものの中から生き物を探し出し、そのうち何匹かの魚を持って帰る用を選んだ。
A1	5	あった	・イタリック-アルファベットの書体の一つ、右側に傾いているのが最大の特徴 ・リュウグウノツカイ-アカマンボウ目リュウグウノツカイ科の魚	4	・操舵室にあったレーダーなどの機器の使い方 ・担当の方が日頃どんなことをしているのか ・船酔いをしないのか、どうすれば酔わないのか ・アルコールにつけておいて腐らないのか	4	4	言われたことを率先してすることができた。見る、書く、読むなど
A2	4	なかった		3	データ解析のとき、これは棘があると言えるのですか、など	4	4	自分の使ったものは、きれいにした。
A2	5	なかった		0		3	—	—
A2	3	なかった		0		4	3	記録を付けた。
A2	4	あった	・側線」とは何か ・Chの測り方について	0		3	4	準備、後片付け、記録の読み上げ
A3	4	なかった		3	①船の中で赤や青などサーモグラフィーのように色で示されている機械があったが、それはどのような事を示しているか。 ②魚の種類を調べているとき鰭の考え方を質問、テレビ画面に映る顕微鏡を見た。③魚の側線の位置を覚えてもらった。	4	4	・ライフジャケットを人数分配った。 ・魚の名前や種類などを調べる本を、終わった後しまった。
A3	4	なかった		2	スケッチの方法について	5	4	計測結果の記入や後片付けなど
A3	4	なかった		0		4	3	—
A3	4	あった	スケッチをした魚について	2	・赤潮について ・棘と軟条の違いについて	4	3	片付けを積極的に行った。
A3	5	あった	シュモクザメの頭の形が、視野を広げ立体視を可能にするためであるということ	1	船上の水質検査で夏は海底の酸素が0になるという話のあと、それで生物が全滅した後どうなるのかを聞いた。	5	4	・網を下ろす手伝い ・水質調査の記入 ・緯度、経度、時刻等のデータを記入者に伝える
A4	5	あった	海面近くで多く見られたクラゲについて調べた。今まで海の深いところに多くいるのだと思っていたが、そうではないらしかった。	0		4	4	班長として点呼を取ったり、最後に忘れ物がないかなどをチェックしたりした。また代表してメモをとったりもした。
A4	4	あった	・スケッチした魚の詳しいこと ・クラゲについて	1	魚の種類の分類のアドバイス	4	4	午後の部屋を出るときの片付け、など

A4	5	あった	クモヒトデについて	1	これは何ををはかるメーターですか？	4	4	班員で分担して、風向、風速、緯度、経度などを測定した。 イスの後片付け。
A4	5	あった	魚の内臓の配置	1	内臓について	5	3	実験器具の後片づけ
A4	4	なかった		0		4	4	—
B1	4	あった	ウミケムシについて、生態、どこに住んでいるかなど	4	赤潮ではないときの透明度はどのくらいか。 なぜ海の上の方が塩分が少ないのか。 ウミケムシの毒はどんな毒なのか、など。	4	3	班長として点呼を取った。記録をメモしたりした。
B1	4	なかった		2	・赤潮について ・プランクトンについて	5	3	物を片づけたり魚についての種の属を探したりした。
B1	4	あった	水深が深くなるほど、Do(溶存酸素量)が減る理由を、一部聞き逃したので、そこを調べた。	0		4	2	—
B1	5	あった	Dep, Ph, Tur, Sal, Tem, Do, Chlの意味	1	海の生物の名前を聞いた	4	4	しっかり話を聞いて、行動をてきぱき行うことができた
B1	5	あった	自分の食べたエビについて調べた。	3	・フグの毒がどこにあるか ・舞鶴湾の赤潮について ・エビが食べられるか	4	5	互いの情報を伝え合うことができた。
B2	4	なかった		3	このエビは食べられるか？ このデータは、どういう意味か？	4	4	班長として班員を集めたり、点呼を取ったりした。
B2	5	あった	ヒトデの目について	3	・クラゲの毒について ・エビについて ・魚の見分け方について	4	4	魚の種類の分別で、どこを見たら良いかを話し合うことができた。
B2	4	あった	クロロフィルの量と酸素濃度の関係について	3	実習船で、なぜクラゲが多いところと、そうでないところがあるか聞いた。	4	4	主に実習船に乗ったとき、データをとるのを手伝った。
B2	5	あった	刺し網でとれたクサフグについて	2	・刺し網でとれた魚の種類 ・水質調査	5	5	・ライフジャケットの準備や後片付け ・数値などの記録
B2	5	なかった		2	船内の器具の使い方や用途	4	4	船内での記録や数値を読み上げること
B3	4	なかった		2	水質調査の内容について確認	4	4	救命具の後片付けを最後まで残ってできた。
B3	5	あった	植物プランクトンとバクテリアの生態(特に有害物質を発生するもの)	1	スケッチの描き方	4	3	
B3	3	あった	Doの意味	0		3	2	網を引っ張りあげたり計器を読んだりした。
B3	4	あった	テンジクダイはタイじゃないなら何なんだ？ A. スズキ目スズキ亜目テンジクダイ科に属する魚類。日本においては底引き網によって漁獲され食用とされる。	2	・これ(生物)は何ですか？ ・Q. 鰭棘(ききょく)は何である？ A. 鰭棘は鰭条のうち先のがった硬い骨質のものでひれを支えている。 鰭条(鰭棘、軟条)2つとも、ひれの支柱となっている。	4	3	集合場所の変更を伝えたり、机をふいたりした。
B3	5	なかった		4	・どうやって魚の種を決めれば良いか →解剖して鰓耙数えたらいいよ ・このカニは何ですか→イシガニ ・水質検査器(?)で分かること ・風向、風速の見方	5	4	色々な作業に積極的に取り組めたと思う。
B4	5	あった	フグの側線、赤潮について	4	魚の種類や、かきかたのアドバイスなど	3	3	班長として頑張れた。
B4	5	あった	・クラゲの増え方 ・海水の重さの出し方	3	・レーダーに映っているものについて ・ウミケムシについて	5	5	

B4	4	なかった		0		3	4	魚を観察した後の机の上をふいたりして、片付けた。
B4	5	なかった		1	実習船で、なぜ各位置の水深や緯度や経度、水温、方角などを記録しているのか。	5	2	なかなか他のメンバーの準備や後片付けを手伝うことはできなかったが、少なくとも自分の身の回りのものを準備したり後片付けをしたりする際には、手際良く次に使う人が気持ち良く実験を行えるように頑張れた。
B4	4	あった	差し網で取れた「タケノコメバル」の学名や生態や料理法	0		3	3	記録するデータの数値を読むこと